

「謝罪」にも癒えぬ深い傷

韓国の元慰安婦

『生活どうにかして』

『期待外れ』怒りと失望

四日発表された従軍慰安婦問題に関する調査報告書の中で、日本政府は韓国の「強制」が伴っていたことを認め、謝罪した。戦後半世紀経たずしてからの謝罪。関係者の中には「歩前進」と一定の評価をしながらも、「実態調査はなお十分」と非難の声も。韓国では元慰安婦らが「認めるのは当たり前」と厳しく「ええい怒りをぶつけ、補償問題求めていた」。

【ソウル4日石原俊洋】今回の報告に対して怒りと失望を表明し、強く反発した。ソウル本部にはこうした元慰安婦が十人ほど集まり、聞き取り調査に応じた。慰安婦が十人ほど集まり



従軍慰安婦問題と強制労働で、資料を手に会見する洪祥進朝鮮人強制連行真相調査団事務局長（左）ら関係者＝東京・霞が関の東京弁護士会館で

「日本政府は、補償問題などでも併せて態度表明をする」と思っていたのに「期待外れの発表だ」との思いを表明した。

「日本側は、元慰安婦援助の基金創設などが検討される具体的な後援措置について、日本側は次期政権にゆだねる構えで、今なお過去を引きずる元慰安婦たちは強い口調で『強制連行の事実を認めるのは当たり前。これからの生活をどうしてくれるかが問題』と言いつける。

韓国政府が定めた「日帝下の日本軍慰安婦に対する生活安定支援法」は可決したものの、施行令がまだで生活保護基本法約八百五十万（七十七万）の支給などはこれから。

十八歳当時、日本の憲兵に無理やり連れられ、ベトナムなどで慰安婦を強いられた女性（心）は「とても誠意ある答えとは受け取れない」とは別に、関連の人物担当している。

『実態解明の努力回避』

関係団体『誠意』に評価の声も

本政府全体が関与していることは、すでにわれわれの調査で確認済み」と非難。一方、東京地裁でのもろ、フィリピン人元慰安婦の損害賠償請求訴訟弁護団は「慰安婦問題は日本に責任がある」と主張。日本政府は「慰安婦問題は日本に責任がある」と主張。日本政府は「慰安婦問題は日本に責任がある」と主張。

韓国での元慰安婦聞き取り調査に立ち会った福島県慰安婦調査団は「裁判にとつては絶対的ブラス。政府はこれまですべて、軍の関与は認める」というだけの態度は取れなくなるという。市民グループ「在日慰安婦裁判を支える会」メンバーの在日韓国人梁尊子さんは「慰安婦の表現はあなが、内容はこれまで明らかになった資料を羅列しただけなのでは？」と批判。